

公 開
資 料 3

第 3 2 0 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和3年12月24日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
Ⅲ 公開審議事項					
1. 規則関係					
提案 1	会則改正に伴う関係規定の整備について	会長	別冊1	第183回総会において「日本学術会議会則の一部を改正する規則案」が議決されたことに伴い、関係規定の整備を行う必要があるため。	会長 —
2. 委員会関係					
提案 2	(幹事会附置委員会) 科学的助言等対応委員会 委員会委員の決定 (新規1件)	会長	4	科学的助言等対応委員会の設置に伴い、同委員会委員を決定する必要があるため。	会長 内規第12条
提案 3	(機能別委員会) 国際委員会 分科会委員の決定 (追加1件)	会長	5	国際委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	高村副会長 内規第18条
提案 4	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正 (新規設置1件) (2)委員会及び分科会委員の決定 (追加5件) (3)小委員会委員の決定 (新規1件)	(1)地球惑星科学委員会委員長 (2)第二部部長 (3)第三部部長	6-9	(1)小委員会の設置に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。 (2)分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。 (3)分野別委員会における小委員会委員を決定する必要があるため。	会長 各部部长 (1)会則第27条1項 (2)(3)内規第18条
提案 5	(課題別委員会) フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 委員会委員の決定 (追加1件)	会長	10	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員の追加を決定する必要があるため。	高村副会長 内規第12条2項
3. 提言等関係					
提案 6	報告「経営学分野における研究評価の現状と課題」について日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと	経営学委員会委員長	別冊2	経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会において、報告を取りまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 ※第一部査読	経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会野口晃弘委員長、上林憲雄委員 内規第3条1項
提案 7	報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」について日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと	薬学委員会委員長	別冊3	薬学委員会医療系薬学分科会において、報告を取りまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	薬学委員会医療系薬学分科会高倉喜信委員長、合田幸広副委員長 内規第3条1項

4. 国際関係

提案8	令和3年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定すること	会長	11	令和3年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定するため。	高村副会長	国際交流事業の実施に関する内規第19条2項、21条
提案9	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2021の開催について	会長	12-13	主催：日本学術会議 日時：令和4年1月31日（月）16:00～18:00、令和4年2月1日（火）18:00～20:00 場所：オンライン開催	高村副会長	内規第5条別表第1

5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等【令和4年度第1四半期】

提案10	公開シンポジウム「第68回構造工学シンポジウム」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	15-16	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 日時：令和4年4月16日（土）～4月17日（日） 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）、東京工業大学大岡山キャンパス西9号館（東京都目黒区大岡山2-12-1）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
------	---------------------------------	----------------	-------	--	---	--------

6. その他のシンポジウム等

提案11	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2022」の開催について	経済学委員会委員長、環境学委員会委員長	17-20	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、東京財団政策研究所（予定）、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所 日時：令和4年1月29日（土）12:00～17:15 令和4年1月30日（日）9:30～16:00 場所：オンライン開催 ※第一部、第三部承認	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム「移植・再生医療の現在の課題」の開催について	臨床医学委員会委員長	21-22	主催：日本学術会議臨床医学委員会移植・再生医療分科会 日時：令和4年2月14日（月）13:30～16:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム「生物多様性からみたワイルドサイエンス」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	23-24	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会 日時：令和4年2月26日（土）13:30～17:00 場所：オンライン開催（日本学術会議6A(1)(2)会議室（予定）（東京都港区六本木7-22-34）から配信） ※第二部承認	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム「世界の高大接続の現状と課題」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	25-26	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会、教育関連学会連絡協議会 日時：令和4年3月12日（土）14:30～17:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第1

提案15	公開シンポジウム 「安全安心技術が支えるデジタル社会 Digital Society Supported by Safety and Security Technologies (DS4T)」の開催について	情報学委員会委員長	27-28	主催：日本学術会議情報学委員会デジタル社会を支える安全安心技術分科会 日時：令和4年3月14日（月）13：00～18：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム 「複合的アプローチで拓く新規フードサイエンス」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	29-30	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会、公益社団法人日本農芸化学会 日時：令和4年3月18日（金）16：00～18：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム 「Disability Inclusive Academia：障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」の開催について	第二部長	31-33	主催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、科学者委員会男女共同参画分科会 日時：令和4年3月23日（水）13:00～16:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1

7. 後援

提案18	国内会議の後援をすること	会長	34	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①第31回国際MICEエキスポ・オンライン (IME2022 Online) ②第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム ③2021年度衝撃波シンポジウム	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	----	-----------------

8. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は1月27日(木)13:30～開催。	35

【幹事会附置委員会】

○委員会委員の決定（新規 1 件）

（科学的助言等対応委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
勝野 正章	東京大学大学院教育学研究科教授	第一部会員
高山 佳奈子	京都大学大学院法学研究科教授	第一部会員
日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事	第一部会員 第一部幹事
溝端 佐登史	京都大学名誉教授・経済研究所特任教授	第一部会員 第一部副部長
山田 八千子	中央大学大学院法務研究科教授	第一部会員
神田 玲子	量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門放射線医学研究所副所長	第二部会員 第二部幹事
木村 通男	浜松医科大学附属病院医療情報部教授	第二部会員
丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員 第二部副部長
相田 美砂子	広島大学特任教授・学長特命補佐	第三部会員
沖 大幹	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員 第三部幹事
高田 保之	九州大学大学院工学研究院機械工学部門教授、カーボンニュートラルエネルギー国際研究所主任研究者	第三部会員
菱田 公一	明治大学研究・知財戦略機構特任教授	第三部会員 副会長
森 初果	東京大学物性研究所教授、所長	第三部会員
米田 雅子	東京工業大学環境・社会理工学院特任教授	第三部会員 第三部副部長
平井 みどり	兵庫県赤十字血液センター所長	連携会員
福嶋 義光	信州大学医学部・信州大学特任教授	連携会員

【設置予定：第 320 回幹事会（令和 3 年 12 月 24 日）、決定後の委員数：16 名】

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（追加 1 件）

（国際委員会 I S C 等分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小谷 元子	東北大学理事・副学長	連携会員

【設置：第 304 回幹事会（令和 2 年 11 月 26 日）、追加決定後の委員数：11 名】

分野別委員会運営要綱の一部を次のように改正する。

改正後					改正前					
別表第1					別表第1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	
地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会	(略)	(略)	(略)		地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会	(略)	(略)	(略)	
	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会 社会水文学小委員会	1. 日本における社会水文学の研究の推進 2. 国際的に活躍できる次世代研究者の育成に係る審議に関する事	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和3年12月24日～令和5年9月30日		(新規設置)				
	(略)	(略)	(略)	(略)						
附 則										
この決定は、決定の日から施行する。										

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会小委員会の設置について

分科会等名：社会水文学小委員会

1	所属委員会名	地球惑星科学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	社会水文学は、自然の水循環と人間社会を一体として捉えた両者の相互作用を対象とする理論的研究のみならず、水文学の知見を社会課題の解決に応用する実践的な知的営みも含む新たな学問分野である。日本でも、人間活動を考慮した水循環研究が独自の発展をしていたが、水資源へのアクセスが都市の形成や人口分布に及ぼす影響や水災害防御施設の整備が水循環に及ぼす影響など、社会水文学研究は国際的な広がりを見せており、2021年9月には社会水文学に関する初めての大規模な国際会議が開催された。このため、水循環を通じた人文・社会科学から地球物理学的側面まで幅広く学際的な社会水文学研究を日本でも推進するため、本小委員会を設置する。
4	審議事項	1. 日本における社会水文学の研究の推進 2. 国際的に活躍できる次世代研究者の育成 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和3年12月24日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

【分野別委員会】

○委員会及び分科会委員の決定（追加5件）

（基礎生物学委員会）

氏名	所属・職名	備考
菅野 純夫	東京医科歯科大学難治疾患研究所非常勤講師	連携会員

【設置：常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：15名】

（基礎医学委員会 IUBMB 分科会）

氏名	所属・職名	備考
佐々木裕之	九州大学生体防御医学研究所教授、高等研究院・研究院長	第二部会員

【設置：第306回幹事会（令和2年12月24日）、追加決定後の委員数：6名】

（臨床医学委員会）

氏名	所属・職名	備考
村上 善則	東京大学医科学研究所所長、癌・細胞増殖部門教授	連携会員

【設置：常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：23名】

（臨床医学委員会・基礎医学委員会合同法学分科会）

氏名	所属・職名	備考
木田 真紀	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座講師	連携会員

【設置：第306回幹事会（令和2年12月24日）、追加決定後の委員数：9名】

（薬学委員会化学・物理系薬学分科会）

氏名	所属・職名	備考
山崎 真巳	千葉大学大学院薬学研究院教授	第二部会員

【設置：第301回幹事会（令和2年10月3日）、追加決定後の委員数：12名】

○小委員会委員の決定（新規1件）

（地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会社会水文学小委員会）

氏名	所属・職名	備考
沖 大幹	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員

小森 大輔	東北大学大学院工学研究科土木工学専攻・准教授	連携会員
橋本 禅	東京大学大学院農学生命科学研究科（未来ビジョン研究センター兼任）准教授	連携会員
吉田 丈人	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境研究所准教授、東京大学大学院総合文化研究科准教授	連携会員

【設置予定：第320回幹事会（令和3年12月24日）、決定後の委員数：11名】

【課題別委員会】

○委員会委員の決定（追加 1 件）

（フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
神原 咲子	高知県立大学大学院看護学研究科教授	連携会員

【設置：第 302 回幹事会（令和 2 年 10 月 29 日）、追加決定後の委員数：27 名】

令和3年度代表派遣実施計画の変更及び会議派遣者の決定について

以下のとおり、令和3年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
1	国際宇宙空間研究委員会 (COSPAR)惑星保護パネル 委員会	12月頃 ↓ 2月21日 ～ 2月22日	ウィーン (オーストリア) / ハイブリッド	中村 昭子 特任連携会員 (神戸大学大学院理学研究科准教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 308 回幹事会 (令和3年2月25日)にて承認済み。 ※開催形式について調整中 ※オンラインで出席
				藤本 正樹 特任連携会員 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教 授、副所長	
2	太陽地球系物理学科学委員 会(SCOSTEP)代表者総会	2月21日 ～ 2月25日 ↓ 2月25日	アリバーグ (インド) ↓ オンライン	塩川 和夫 特任連携会員 (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授・副所 長)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 308 回幹事会 (令和3年2月25日)にて承認済み。
				三好 由純 特任連携会員 (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授)	

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2021 の開催について

1. 主催 日本学術会議
2. 後援 国立研究開発法人国立環境研究所、Future Earth 国際事務局日本ハブ
3. 日時 令和 4 年 1 月 31 日(月) 16:00～18:00
令和 4 年 2 月 1 日(火) 20:00～22:00 (共に日本時間)
4. 会場 オンライン開催
5. テーマ Achieving Net Zero Emissions: The Roles of Academia
(ネットゼロ・エミッションー達成に向けた学術の役割ー)

6. 開催趣旨

気候変動に対する危機意識が国際的に高まりを見せる中、2021 年はネットゼロに向けた目標設定と、そこに至る具体的な対策が広く検討された1年であった。

本会議では、「ネットゼロ・エミッションー達成に向けた学術の役割ー」をテーマに、1日目は「アジアでのネットゼロ・エミッション」、2日目は「気候変動をめぐるシナジーとトレードオフ」の観点から、国内外の多様な学問分野の専門家に参加を呼び掛け、SDGs で示された 17 のゴールと気候変動に関する最新の動向を踏まえつつ、世界がネットゼロ達成を実現するために、学術界がいかなる貢献をすべきかといった論点における学術の役割を、分野横断的に模索する。

7. 次第

1 月 31 日(月)

16:00-16:05 開会挨拶 梶田 隆章(日本学術会議会長)

16:05-16:10 来賓挨拶 内閣府政策担当者(調整中)

16:10-16:15 趣旨説明 亀山 康子(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域領域長)

16:15-17:00 ショートスピーチ

ヨハン・ロックストローム(ポツダム気候変動影響研究所ディレクター、ポツダム大学地球システム科学教授)

ジャン・ケジュン(中国国家発展改革委員会エネルギー研究所上席研究員)

ミランダ・シュラーズ(ミュンヘン工科大学環境気候政策教授)

17:00-18:00 パネルディスカッション

モデレーター 亀山 康子

パネリスト ジャン・ケジュン
ミランダ・シュラーズ 他調整中

2月1日(火)

20:00-20:05 趣旨説明 亀山 康子

20:05-20:50 ショートスピーチ

ダイアン・コイル(ケンブリッジ大学公共政策教授)

英国王立協会関係者(調整中)

他調整中

20:50-21:55 パネルディスカッション

モデレーター 春日 文子(日本学術会議連携会員、Future Earth 国際事務局日本ハブ事務局長、国立環境研究所特任フェロー)

パネリスト ダイアン・コイル

英国王立協会関係者(調整中)

他調整中

21:55-22:00 閉会挨拶 高村 ゆかり(日本学術会議副会長)

5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和4年度第1四半期】

<概要>

土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回
 (ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和4年度第1四半期】 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案9	公開シンポジウム「第68回構造工学シンポジウム」	令和4年 4月16日(土) ～17日(日)	日本学術会議講堂、東京工業大学大岡山キャンパス西9号館 (ハイブリッド開催)

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 (学術フォーラム含む) 全1件 残り：31件
 (内訳)

	関連部等	第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
シンポジウム	第一部				
	第二部				
	第三部	1			
	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム(土日)					
合計		1			

公開シンポジウム
「第 68 回構造工学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 4 年 4 月 16 日（土）～4 月 17 日（日）
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）、東京工業大学大岡山キャンパス西 9 号館（東京都目黒区大岡山 2-12-1）（ハイブリッド開催）
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

構造工学シンポジウムでは、主として土木構造・建築構造物にかかわるすべての工学技術について、目的・方法・結論等の明記された、理論的または実証的な研究論文、あるいは新しい知見を含み学術的に価値の高い、特色のある資料・調査・計画・実験・施工等、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文の募集を行う。査読を通過した論文の発表講演に加え、特別講演とパネルディスカッションを行う。

第 68 回目となる今回では、予測不能なリスクや危機に対してサステナブルな環境をいかに実現していくかを問う、現代的な課題であるといえるレジリエントな都市、レジリエントな建築に焦点をあてた特別講演、パネルディスカッションを行う。昨今様々な大規模災害に見舞われる我が国の地域社会において、災害から命を守ると同時に被災から速やかに回復することのできる建築や都市が切実に求められている。今後の都市防災や防災技術を考える場としたい。

8. 次 第：

○開会式

日時 4 月 16 日（土）15:00～15:10

場所 日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）

挨拶 米田 雅子（日本学術会議第三部会員、東京工業大学環境・社会理工学院特任教授）

前川 宏一（日本学術会議第三部会員、横浜国立大学都市イノベーション研究院都市イノベーション部門教授）

司会 五十田 博（日本学術会議連携会員、日本建築学会構造工学論文集小委員会主査、
京都大学生存圏研究所教授）

○特別講演会

日時 4月16日（土）15:10～16:10

場所 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）

講師 竹脇 出（日本学術会議連携会員、京都大学教授、前日本建築学会会長）

タイトル 「レジリエンスを高める免震と制振のハイブリッド構造（仮）」

司会 五十田 博（日本学術会議連携会員、日本建築学会構造工学論文集小委員会主査、
京都大学生存圏研究所教授）

○パネルディスカッション

日時 4月16日（土）16:15～18:05

場所 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）

タイトル 「レジリエンスな社会の実現に向けて—頻発、激化、そして多様化する災害に
いかに立ち向かうか—」

司会 永野 正行（日本学術会議連携会員、日本建築学会構造工学論文集編集小委員会幹
事、東京理科大学理工学部建築学科教授）

栗橋 祐介（土木学会構造工学論文集編集小委員会幹事長、金沢大学理工研究域地
球社会基盤学系准教授）

主旨説明 五十田 博（日本学術会議連携会員、日本建築学会構造工学論文集編集小委員
会主査、京都大学生存圏研究所教授）

パネリスト講演（予定）

「高レジリエンス構造システムの考え方」朝川 剛（東京電機大学教授）

「名古屋大学減災連携研究センターの活動」飛田 潤（名古屋大学減災連携研究センター
長、教授）

「講演タイトル検討中」土木学会側パネリスト1

「講演タイトル検討中」土木学会側パネリスト2

○一般講演

日時 4月16日（土）～17日（日）

場所 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）（16
日）、東京工業大学大岡山キャンパス西9号館（東京都目黒区大岡山2-12-1）
（ハイブリッド開催）（17日）

建築部門、土木部門ごとに投稿論文の発表を行う。

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

公開シンポジウム
「フューチャー・デザイン 2022」の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、東京財団政策研究所（予定）、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所
2. 共 催：総合地球環境学研究所（予定）、一般社団法人フューチャー・デザイン、一般社団法人しあわせ推進会議
3. 後 援：公益社団法人経済同友会、土佐経済同友会
4. 日 時：令和4年（2022年）1月29日（土）12:00～17:15
1月30日（日）9:30～16:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

現在、新型コロナウイルスの感染症については、未だ終息を見せない中にあり、世界に目を向ければまだまだ通常の生活に戻るにはほど遠いように思う状況が続きます。そのような中、明らかに世界は大きな変容の中にあり、働き方や会議はリモートへ等、徐々にライフスタイルも変わってきています。

こうした状況に鑑み、数世代先の未来の立場に立って、その視点から現代をふり返って現世代が将来可能性を最も発揮できるような社会の仕組みをデザインする『フューチャー・デザイン』という手法を使う有益性を人類全体が感じる時代が到来するものと考えています。

そのため、今回開催する「フューチャー・デザイン 2022」は、コロナ後の世界をどのようにデザインすれば良いのかについて、政治や行政機関、経済や企業、学術研究などの専門家の智恵を集め、皆様で考えるためのシンポジウムとして位置付けています。

8. 次 第：

1月29日（土）

司会：西條辰義（日本学術会議連携会員、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所
所長、総合地球環境学研究所特任教授）

12:00～12:10 開会の挨拶

小林慶一郎（慶應義塾大学経済学部教授、東京財団政策研究所研究主幹）

- 12:15～13:30 “ウィズコロナ／ポストコロナのフューチャー・デザイン” についてのA班事前セッション（小林慶一郎氏、永野あきほ氏、神津多可思氏による）のまとめ発表
中川善典（日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授）
- 13:30～14:45 “ウィズコロナ／ポストコロナのフューチャー・デザイン” についてのB班事前セッション（廣光俊昭氏、松本紹圭氏、佐藤主光氏による）のまとめ発表
中川善典（日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授）
- 14:50～15:50 パネルディスカッション
（司会）中川善典（日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授）
（パネラー）
A班：小林慶一郎（慶應義塾大学経済学部教授、東京財団政策研究所研究主幹）
永野あきほ（ミシガン大学公共政策大学院（行政官長期在外研究員））
神津多可思（日本証券アナリスト協会専務理事）
B班：廣光俊昭（経済学研究者（在米国日本国大使館公使））
松本紹圭（現代仏教僧、世界経済フォーラム（ダボス会議）Young Global Leader）
佐藤主光（一橋大学政策大学院経済学研究科教授）
（コーディネーター）
A班：藤島和典（一般社団法人フューチャー・デザイン理事）
B班：渡邊基文（一般社団法人フューチャー・デザイン理事）
- 15:50～16:10 休憩
- 16:15～17:10 基調講演
Kate Raworth, University of Oxford
“From Growth to Thriving: humanity’s 21st century journey”
- 17:15 閉会の辞

1月30日(日)

司会：西村直子（日本学術会議連携会員、立命館大学食マネジメント学部教授）
学術報告

9:30～9:55 Moinul Islam（高知工科大学フューチャー・デザイン研究所講師）
“Cycle of nature and sustainable development from a perspective of nitrogen inputs”

10:00～10:25 加藤隆弘（九州大学病院精神神経科）
「ひきこもり支援におけるフューチャー・デザインの活用」

10:30～10:55 千葉安佐子（東京財団政策研究所）
「新型コロナウイルス対策と課題：フューチャー・デザインの観点から」

11:00～11:25 一原雅子（総合地球環境学研究所）
「公正な移行を経た京都のフューチャー・デザイン：複合する社会課題に取り
組むための部分的試案」

実践報告

11:30～11:55 長澤敦雄（村田機械株式会社研究開発本部技術開発センター）
「フューチャー・デザインによる開発テーマの創出（仮）」

12:00～13:00 休憩

13:00～13:25 在賀耕平（佐久穂町役場 政策アドバイザー）
「紆余曲折の佐久穂町フューチャー・デザインの歩み」

13:30～13:55 鈴木絵里（松本市総合戦略局総合戦略室）
「松本市におけるフューチャー・デザインの取組み～小さな単位での実践に向
けて～」

14:00～14:25 高橋雅明（矢巾町企画財政課）
「フューチャー・デザイン・タウン矢巾の実践（仮）」

14:30～14:55 舟越康浩（土佐経済同友会会員）
「高知県10年ビジョン（仮）」

15:00～15:25 渡邊基文（一般社団法人しあわせ推進会議、一般社団法人フューチャー・デザイン）

「高知県フューチャー・デザイン 2050（仮）」

15:30～15:55 総合討議

16:00 閉会の辞

9. 関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「移植・再生医療の現在の課題」の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会移植・再生医療分科会
2. 共 催：日本再生医療学会
3. 後 援：日本移植学会
4. 日 時：令和4年（2022年）2月14日（月）13：30～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

移植・再生医療は治療困難な難病等を治癒する手段として、重要な医学的分野として認識されているが、その実施にあたっては、法的、倫理的課題が残されている。

移植・再生医療分科会では、日本学術会議提言「我が国における移植医療と再生医療の発展と普及」（令和2年9月18日）に基づき、具体的な活動として「患者のための先端医療」が最重要と考えていることを明示したいと考えている。よって、その理念に基づき現在の法的・倫理的課題を抽出し政策につなげていくことを目的とする。

8. 次 第：

13：30 開会

13：35 移植医療分野における法的・倫理的課題

江川 裕人（日本移植学会理事長）

14：15 再生医療分野における法的・倫理的課題

岡野 栄之（日本学術会議連携会員、日本再生医療学会理事長）

14：55 総合討論

座長 澤 芳樹（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院医学系研究科）

岡野 栄之（日本学術会議連携会員、日本再生医療学会理事長）

[討論者]

江川 裕人（日本移植学会理事長）

山口 育子（認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長）

位田 隆一（滋賀大学学長）

藤田みさお（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門教
授）

松山 大耕 (妙心寺退蔵院 副住職)
中村 幸司 (NHK 解説委員)

16:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「生物多様性からみたワイルドサイエンス」の開催について

1. 主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会
2. 共催：総合地球環境学研究所、京大大学生態学研究センター、京都大学野生動物研究センター、科研費新学術領域研究「共創言語進化」総括班
3. 後援：なし
4. 日時：令和4年（2022年）2月26日（土）13:30～17:00
5. 場所：オンライン開催（日本学術会議6A(1)(2)会議室（予定）（東京都港区六本木7-22-34）から配信）
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

私たちは、生物多様性保全をより身近なものとしてとらえ、野生動物と人の暮らしを一体として守りたい。今回の新型コロナウイルス問題についても、生物多様性の進化史を遡って考えることが重要である。本シンポジウムでは、目に見える大型動物の保全から細菌、ウイルスなどを含んだ生物の進化史的なつながりを概説し、関連省庁、生き物を目の当たりにしている飼育繁殖施設、農村や生産者、それらをつなぐ研究者の、実感を伴う議論によって、総合科学として自然誌科学を野生動物管理に活かす枠組みに向けた連携をはかる。

8. 次第：

- | | |
|-------|--|
| 13:30 | 趣旨説明
<u>村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）</u> |
| 13:40 | 生物多様性とヒト
吉川 泰弘（日本学術会議連携会員、岡山理科大学獣医学部長） |
| 14:10 | 水圏ウイルスと地球環境との関係（仮）
緒方 博之（京都大学化学研究所教授）
(14:40～15:00 休憩) |
| 15:00 | サンゴ礁生態系とオニヒトゲ大量発生
<u>安田 仁奈（日本学術会議連携会員、宮崎大学農学部准教授）</u> |
| 15:30 | 鳥類、哺乳類の生息域外保全
村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授） |

- 16:00 総合討論
(司会)
山越 言 (日本学術会議連携会員、京都大学アジア・アフリカ地域研究
研究科教授)
(コメンテーター)
岡ノ谷 一夫 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科
教授、新学術領域研究「共創言語進化」領域代表)
大沼あゆみ (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学経済学部教授)
山極 壽一 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研
究機構総合地球環境学研究所長)
中野 伸一 (日本学術会議連携会員、京都大学生態学研究センター長)
環境省担当者 (調整中)
- 17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者は、主催委員会 (分科会) 委員)

公開シンポジウム
「世界の高大接続の現状と課題」の開催について

1. 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会、教育関連学会連絡協議会
2. 共催：なし
3. 後援：なし
4. 日時：令和4年（2022年）3月12日（土）14：30～17：00
5. 場所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：なし
7. 開催趣旨：

後期中等教育から高等教育への進学者が少数であった時代においては、高大接続とは入学者選抜という一接点のみの問題であった。後期中等教育でどれだけの準備をして力をつけた学生を選抜するかが高大接続の焦点であった。しかしながら、高等教育とりわけ大学への進学率が上昇するにつれ、高大接続の課題は、入学者選抜という一接点に加え、後期中等教育における教育内容と大学におけるそれとの関係、後期中等教育機関から大学へ移行する生徒・学生の学習状況など、面へと拡がりを見せるようになった。

世界に先駆けて高等教育の拡大が進んだアメリカでは、後期中等教育（ハイスクール）が多様な生徒を受け入れ、大学進学層に特化したアカデミックな教育が不十分なため、大学において大学での学習の準備をするリメディアル教育制度が普及している。ヨーロッパは、中等教育の段階で大学進学準備機関とそれ以外が分岐しているため高大の接続は課題とされてこなかったものの、近年の大学進学率の上昇にともない、接続の齟齬をどのように解決するかが問題とされるようになった。他方、アジア、とりわけ東アジアは、競争の厳しい学力選抜に対する批判への対応策としての多様な選抜方法の導入のなかで、高大接続という問題が浮上してきた。

そこで、本シンポジウムでは、アメリカ、ヨーロッパ、東アジアにおける高大接続の現状と課題を、日本を念頭において相互に比較し、日本における高大接続の在り方を考える上での示唆を得ることを目的とする。

8. 次第:

- 14:30-14:35 開会挨拶・趣旨説明: 松下佳代 (日本学術会議第一部会員、京都大学教授)
- 14:35-14:55 報告1: 山田礼子 (日本学術会議連携会員、同志社大学教授)
「日本について (仮題)」
- 14:55-15:15 報告2: 松浦良充 (日本学術会議連携会員、慶応義塾大学教授)
「アメリカについて (仮題)」
- 15:15-15:35 報告3: 渡邊雅子 (日本学術会議連携会員、名古屋大学教授)
「フランスについて (仮題)」
- 15:35-15:55 報告4: 南部広孝 (京都大学教授)
「アジアについて (仮題)」
- (15:55-16:05 休憩)
- 16:05-16:20 指定討論: 中村高康 (日本学術会議連携会員、東京大学教授)
- 16:20-16:55 質疑応答
- 16:55-17:00 総括・閉会挨拶: 勝野正章 (日本学術会議第一部会員、東京大学教授)

司会 吉田 文 (日本学術会議第一部会員、教育関連学会連絡協議会運営委員長、早稲田大学教授)

9. 関係部の承認の有無: 第一部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「安全安心技術が支えるデジタル社会
Digital Society Supported by Safety and Security Technologies (DS4T)」の
開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会デジタル社会を支える安全安心技術分科会
2. 後 援：日本セキュリティ・マネジメント学会（予定）、日本ネットワークセキュリティ協会（予定）
3. 日 時：令和4年3月14日(月)13：00～18：00
4. 場 所：オンライン開催
5. 分科会等の開催：開催予定あり
6. 開催趣旨：
デジタル社会のもたらす恩恵や脅威などは、医療、教育、産業界など各種業界にかかわらず議論できるものもあるだろう。このようなデジタル社会がもたらす各種システムの恩恵を共有する一方、デジタル社会の脅威とそれらを解決する技術・枠組みの必要性を明確にすることが必要である。絶対なる安全はないという前提において、恩恵と脅威のトレードオフを明確にすることでデジタル社会システムの浸透のためにすべきことを明らかにする。
7. 次 第：
13：00 趣旨説明
宮地 充子（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
13：15-16：10 講演
司会 岩村 誠（日本学術会議連携会員、日本電信電話株式会社特別研究員）
第一部講演 安全安心技術が支えるデジタル社会の設計
13：15-13：55
（仮題）「安全安心技術が支えるデジタル社会の制度設計」須藤 修（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）
13：55-14：35
（仮題）「企業におけるデジタル社会の制度設計」野原佐和子（株式会社イプシ・マーケティング研究所代表取締役社）
14：35-14：50（休憩）
第二部講演 デジタル社会実現へ取り組み紹介
14：50-15：30
（仮題）「地方自治体における安全安心が支えるデジタル社会の取組について」馬奈木

俊介（日本学術会議第一部会員、九州大学大学院工学研究科教授）

15：30-16：10

（仮題）「デンマークにおける安全安心技術が支えるデジタル社会設計について」

安岡 実佳（北欧研究所／Roskilde University 准教授）

16：10 パネルディスカッション

コメンテーター：

須藤 修（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

パネラー：

馬奈木俊介（日本学術会議第一部会員、九州大学大学院工学研究科教授）

安岡 実佳（北欧研究所／Roskilde University 准教授）

楠 正憲（デジタル庁統括官）

後藤 厚宏（情報セキュリティ大学大学院学長）

松浦 幹太（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所第三部教授）

17：40 総括

高田 広章（日本学術会議第三部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

18：00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「複合的アプローチで拓く新規フードサイエンス」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会、公益社団法人日本農芸化学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）3月18日（金）16：00～18：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

サイエンスにおいて、異分野の概念や手法を導入することにより、ブレーク・スルーが起こり、発展してきている例は数多く見られる。例えば、古くには、物理化学分野における化学ポテンシャルと水の活量（activity of water）の概念を、“水分活性”としてフードサイエンスに導入したことにより、食品保存中の微生物の繁殖を抑制したり、糖とアミノ酸とのメイラード反応速度を制御したりできるようになった。また、30年ほど前には、ポリマーサイエンスの分野におけるガラス転移の概念を食品に導入したことにより、粉ミルクなどの保存過程で起こる粉体の固結や、凍結乾燥時の試料の凍結状態の違いが乾燥の可否に影響を与えるという現象の解明が進んだ。食品成分であるタンパク質やデンプンは、温度により大きく性状が変化する上、食品の加工・保存過程では、成分間の変化も起こるため、異分野で使われている手法が、そのまま使える訳ではないが、新たな概念を取り入れることにより、壁を破り、光を差し込むことは可能である。近年も、そのようなブレーク・スルーを目指して、異分野の概念や手法を取り入れた様々な研究が行われている。

本シンポジウムは、そのようなチャレンジングな研究を行っている研究者に、ご自身の研究の紹介をしていただくことにより、壁にぶつかっている研究に新たな光を差し込み、フードサイエンスのさらなる発展につながることを期待して企画した。

8. 次 第：

16：00～16：03 開会の挨拶

熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、公益社団法人日本農芸化学会フェロー、日本大学生物資源科学部教授）

16：03～16：27 講演

「フードナノバイオサイエンスで拓く食の安全の可視化」

飯嶋 益巳（東京農業大学応用生物科学部食品安全健康学科）

座長：熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、公益社団法人日本農芸化学会フェロー、日本大学生物資源科学部教授）

16：27～16：51 講演

「植物由来芳香族化合物を分解する酵素と微生物の解析：農業加工残渣の高付加価値化に向けて」

大田 ゆかり（群馬大学食健康科学教育研究センター）

座長：飯嶋 益巳（東京農業大学応用生物科学部食品安全健康学科）

16：51～17：15 講演

「量子ビーム小角散乱解析による食品タンパク質のナノ構造の解明」

座長：大田 ゆかり（群馬大学食健康科学教育研究センター）

17：15～17：39 講演

「移動現象論に基づく水溶性食物繊維への低分子の吸着挙動の解析」

座長：裏出 令子（公益社団法人日本農芸化学会フェロー、京都大学複合原子力科学研究所）

17：39～18：03 講演

「化学工学的なアプローチを用いた脂質の酸化・抗酸化メカニズム解析」

北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科化学工学専攻）

座長：熊谷 仁（共立女子大学家政学部食物栄養学科）

18：03～18：27 講演

三輪 佳宏（理化学研究所バイオリソース研究センター）

座長：竹中 麻子（日本学術会議連携会員、明治大学農学部教授）

18：27～18：30 閉会の挨拶

裏出 令子（公益社団法人日本農芸化学会フェロー、京都大学複合原子力科学研究所）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム

「Disability Inclusive Academia：障害のある人々の視点は
科学をどう変えるか」の開催について

(連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第3回)

1. 主 催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、
科学者委員会男女共同参画分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：文部科学省、厚生労働省、内閣府政策統括官（政策調整担当）、国立研究開
発法人科学技術振興機構、公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本看
護系学会協議会、一般社団法人日本医学会連合、一般社団法人日本歯科医
学会連合、一般社団法人日本農学会、生活科学系コンソーシアム、生物科
学学会連合、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー、男女共同参
画学協会連絡会、全国ダイバーシティネットワーク、AHEAD JAPAN、PEP
Net ジャパン、日本障害学会（以上、予定）
4. 日 時：令和4年3月23日（水）13:00～16:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：

2007年9月28日に日本政府は、全ての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有の促進・保護・確保をうたう障害者権利条約に署名し、2011年障害者基本法改正、障害者虐待防止法成立、2012年障害者総合支援法や障害者優先調達推進法成立、2013年障害者差別解消法と改正障害者雇用促進法成立など、同条約と整合性のあるものへと大規模な国内法整備を行った。その後、日本政府は障害者権利条約を批准し、2014年2月19日に発効した。このように、ここ15年で障害のある人の権利を保障する国内外の法制度が急速に整備されて、大学に進学する障害のある学生も年々増えてきている。

また、科学研究において、問題解決能力の向上、イノベーションの増加、より正確な予測など、複雑なタスクにおいて、多様性のある研究チームが均質な研究チームグループよりも優れていることを示す豊富な証拠がある(Page et al., 2017; Freeman and Huang, 2014)。また、多様性のある研究チームはより多くの論文を発表し、論文ごとの被引用数も多い傾向にある(Adams, 2013)。さらに、多様で異なる考え方を持つ人々は、医師や科

学者として、より広範な社会問題から情報を得ながら診療や研究を行うことで、医療格差の改善に寄与することができるともいわれている(Eckstrand et al., 2016)。ビジネスの世界でも Accenture は、障害のある人を包摂する企業が、売上高、純利益、利益幅、総株主利益、総株主利益などの点で優れた成績をあげていることを報告している。

このように、人権という観点からも、科学の発展という観点からも、障害のある人々を包摂するアカデミア(Disability Inclusive Academia)の実現は重要である。しかし、現実にはアカデミア、なかでも STEM 領域において、障害のある人々の活躍を阻む、物理的・制度的・文化的な障壁が数多く存在している。

本シンポジウムでは、そもそも科学はなぜ、障害のある人に対してインクルーシブでなくてはならないのかという「理念」、そして、数少ない障害研究者はどのような困難に直面しているのかについての「実態」を確認したうえで、アカデミアを障害のある人々にとってインクルーシブにしていくには、どのような技術的・文化的・制度的アプローチがありうるのか、その「解決策」の一端を考える。

Page SE, Lewis E, Cantor N. The diversity bonus: how great teams pay off in the knowledge economy. Princeton, NJ: Princeton University Press, 2017.
Freeman RB, Huang W. Collaboration: strength in diversity. Nature 2014; 513:305.
Adams J. Collaborations: the fourth age of research. Nature 2013; 497:557-60.
Eckstrand KL, Potter J, Bayer CR, Englander R. Giving context to the physician competency reference set: adapting to the needs of diverse populations. Acad Med 2016; 91:930-5.
Getting to Equal 2018: The Disability Inclusion Advantage by Accenture at https://www.accenture.com/_acnmedia/pdf-89/accenture-disability-inclusion-research-report.pdf

8. 次 第:

総合司会：熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授）

◆挨拶

13:00～13:05 主催者挨拶：望月 眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）

13:05～13:15 主賓挨拶：千原 由幸（文部科学省科学技術・学術政策局長）
主賓挨拶：(厚生労働省と調整中)

◆趣旨説明： 13:15～13:20

熊谷 晋一郎（日本学術会議連携会員、東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野准教授）

◆シンポジウム第1部：障害のある研究者の声と実態

13:20～13:30 本田 充（京都大学 iPS 細胞研究所研究員）

13:30～13:40 勝谷 紀子（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

13:40～13:50 矢田 祐一郎（広島大学統合生命科学研究科研究員）

13:50～14:00 瀬戸山 陽子（東京医科大学医学部講師）

◆休憩：14:00～14:10

◆シンポジウム第2部：障害インクルージョンに向けた合理的配慮と基礎的環境整備

14:10～14:30 「聴覚障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備（仮題）」

松崎 丈（宮城教育大学教育学部准教授）

14:30～14:50 「視覚障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備（仮題）」

南谷 和範（大学入試センター 研究開発部試験基盤設計研究部門教授）

14:50～15:10 「精神・発達障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備（仮題）」

綾屋 紗月（東京大学先端科学技術研究センター特任講師）

15:10～15:30 「運動障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備（仮題）」

並木 重宏（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

◆パネルディスカッション：15:30～16:00

司会：熊谷 晋一郎（再掲）

パネリストは前述の講演者の8名

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第31回国際MICE エキスポ・オンライン (IME2022 Online)

主催：一般社団法人日本コンgres・コンベンション・ビューロー、日本政府観光局

期間：令和4年2月16日(水)～2月17日(木)

場所：オンライン開催

参加予定者数：約400名以上

申請者：一般社団法人日本コンgres・コンベンション・ビューロー会長 猪口邦子

審議付託先：国際委員会

審議付託結果：国際委員会 承認

2. 第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

主催：公益社団法人日本工学会

期間：令和4年3月4日(金)13:00～17:00

場所：Webによるリモート開催 (Zoom ウェビナー)

参加予定者数：約100名

申請者：公益社団法人日本工学会会長 岸本喜久雄

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

3. 2021年度衝撃波シンポジウム

主催：日本衝撃波研究会、宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所、
東北大学 流体科学研究所

期間：令和4年3月9日(水)～3月11日(金)

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス

(対面開催として準備し、12月末の段階で、開催形態(対面またはオンライン)を最終判断)

参加予定者数：約250名

申請者：2021年度衝撃波シンポジウム実行委員会委員長 渡辺圭子

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

○今後の予定

●幹事会

第321回幹事会	令和4年 1月27日(木)	13:30から
第322回幹事会	令和4年 2月24日(木)	13:30から
第323回幹事会	令和4年 3月24日(木)	13:30から
第324回幹事会	令和4年 4月18日(月)～20日(水)	
	※第184回総会期間中に開催予定	
第325回幹事会	令和4年 5月25日(水)	13:30から
第326回幹事会	令和4年 6月29日(水)	13:30から
第327回幹事会	令和4年 7月27日(水)	13:30から
第328回幹事会	令和4年 8月30日(火)	13:30から
第329回幹事会	令和4年 9月28日(水)	13:30から
第330回幹事会	令和4年 10月26日(水)	13:30から
第331回幹事会	令和4年 11月28日(月)	13:30から
第332回幹事会	令和4年 12月21日(水)	13:30から

以降の幹事会日程は追って調整

●総会

第184回総会 令和4年4月18日(月)～20日(水)